参考資料

次の資料は、東京学芸大学教職大学院の専任教員・成田喜一郎の「カリキュラムデザイン基礎」講義（最終講義）において配布された資料である。

なお、参考資料１－１および参考資料２は、1994 年８月から 2017 年２月までのカリキュラムデザイン研究の成果物の一部である。

参考資料 １－１

「教育諸理論の三層包括分類表（Ver.9.0）」（2017.2.4）

参考資料 １－２

「教育諸理論の三層包括的分類」（吉田,1999:291）

参考資料 ２

「戦後日本における学習指導要領の変遷と教師のライフヒストリー:社会科教育を中心に」（2016 年版）

これらの位置付けや意味づけについては、成田喜一郎（2017）「カリキュラムデザイン研究の現在：1994.8 から 2017.2 までの学びと究めを踏まえて」『東京学芸大学教職大学院年報』第５集（pp.1-13）を参照されたい。

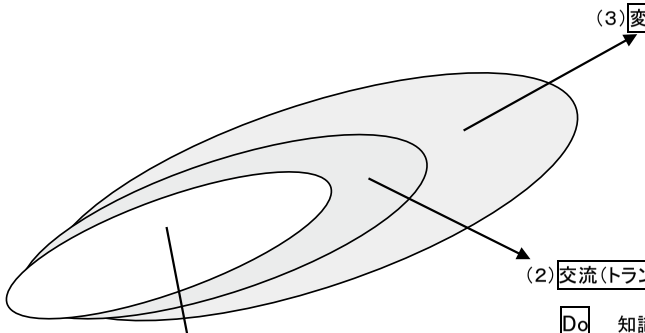
（成田喜一郎）

参考資料 1−1　カリキュラムを俯瞰するための「教育諸理論の三層包括分類表(Ver.9.0)」:2017.2.4 成田喜一郎

三層包括的分類	Transmission 伝達（ベイトソン 2000・学習階型Ⅰ）	Transaction 交流（ベイトソン 2000・学習階型Ⅱ）	Transformation 変容、「主体変様」「創成」 ホリスティック・アプローチ（ベイトソン 2000・学習階型Ⅲ）
思想哲学 *哲学的背景*	Atomism（*原子論*）　*本質主義的* 論理実証主義、分析哲学 デカルト、ニュートン、ウィトゲンシュタイン、 ヘルバルト 等	Pragmatism（プラグマティブム）　構造主義　*構成(構築)主義的* デューイ、コールバーグ、シュワッブ　（*生成変化のプロセス、経験理解のための実験科学、問題解決、反省的知性＝省察*） ニクラス・ルーマン 等	*社会(的)構成主義的*　Holism（全人・全連関論） エマーソン、フッサール、ハイデガー、キルケゴール、ブーバー、ベイトソン、ボーム、カンジー、クリシュナムルティ、サティシュ・クマール、ディクナット・ハン、*先住民の伝統智*、*老子*、*芸道（世阿弥の能楽論）*、*禅*、*楕円の思想・哲学（内村鑑三）* 等
心理学的背景 *脳科学的背景*	行動主義心理学　*パブロフ、ソーンダイク、スキナー* *認知と情動・感覚運動の切り離し*	認知発達心理学　ピアジェ、ヴィゴツキー *認知と情動・感覚運動との関連性（知・徳・体のバランス）*	深層心理学、トランスパーソナル心理学　ユング、マズロー、ウィルバー等、 *黒田正典・主体変様論*、　*認知・情動・感覚運動の三位一体性*
教育学 *教育学的背景*	ボビット、ブルーム、カルナップ、*教授学習理論（刺激−反応）* （*物質主義、要素還元主義、テクノロジーによる人間行動制御、価値中立性*）	問題解決学習論、課題解決学習理論、*学習科学理論*　R.K.ソーヤー、*佐藤学*、*秋田喜代美*、*三宅なほみ*　*小田博志* *文化−歴史的活動理論　ユーリア・エンゲストローム、山住勝広*	「実存主義と現象学」的教育学、フレーベル、シュタイナー、フレイレ、*V.E.フランクル* フリック、ケアリング教育学、、ガードナー、ノディングズ、スローン、J.ケーン、ロン・ミラー、ウィギンズ＆マクタイ、　*J.P.ミラー*、*吉田敦彦*、*中川吉晴*、*今井重孝*、*手塚郁恵*
教育目的	基礎的技能・基本的知識・*概念*・の伝達・*習得* *Have もつこと*	*思考力・判断力・表現力等（想像力）*、合理的な問題解決能力・判断力、合意形成能力の育成、*活用・探究*　*Do（Have）おこなうこと*	意志＝感情＝思考＝精神の関係深化　意味や価値の自覚、*論理と直観との均衡*、*主体変様と社会参画*　*Be（Do・Have）あること*
教育課程（*カリキュラム＝計画・実施・達成、潜在*）	教育内容に焦点　教科中心系統的カリキュラム（*系統主義*） *時間割の中の1コマ毎の各教科等の授業の編成* ， *PDCA*	問題解決プロセスへの焦点、経験中心カリキュラム（*経験主義*）、 *総合的な学習の時間*　*教科・領域を超えた○○教育カリキュラム* *時間割を超えた学校内外における学習の拡張・深化へ* *ALACT*、*CAP, Do*、*方法としての カリキュラムの逆向き設計*	多層的な関係性に焦点化　出会い・気づき・覚醒等の重視 *理解の6側面 UbD*　*系統主義と経験主義のつながり・つりあい・つつみこみ・つづける* *専門性・世代・地域等を超える ESD（持続可能な開発のための教育）* *OODA*　*国際バカロレア・カリキュラム（PYP・MYP・DP、CP）*
教育方法	講義形式、プログラム学習、練習・ドリル・反復、完全習得学習、　*チャイム・ベルによる時間の制御* *教師にやらされる、アクティブ・ラーニングⅠ* *発問（内容質問）* *学校図書館（個人的な利用、関連教科文献貸出）*	探求学習、発見学習、意思決定モデル、個別学習 *個人・グループ調査研究（調べ学習）*、ケーススタディ、道徳的ディレンマ *方法・活動に焦点化された、アクティブ・ラーニングⅡ* *単元を貫く問い（単元質問）* *学校図書館（個人・グループでの活用、調べ学習での活用）*	創造性開発性思考法、つながりを深める教授、協同学習、イメージワーク、ホール・ランゲージ学習、ムーブメント、ホールスクールアプローチ、　*共に創る時間の流れ* *個に始まり個に舞い戻り思考を深める、アクティブ・ラーニングⅢ* *本質的で根源的な問い（永続的な理解・思考、社会参画を促す問い）* *学校図書館（教科・専門性を超えて人と人とをつなぐアフォーダンス）*
主な *教育資源*	*標準化された教科書*　*市販の副教材*	さまざまな知的刺激（*知的好奇心を引き出す多様な教材・学習財*）	*子ども・教師の人間性・存在そのもの、教師のライフヒストリー*
評価方法 *（確認とその記録）*	標準テスト、選択テスト、正誤テスト、完成テスト（*数値化*） *「客観」性の重視*	チェックリスト、観察と記録、意思決定記述評価、質問紙*調査*、*自由記述レポート*、*ポートフォリオ評価*、*パフォーマンス課題*、*ルーブリック* *実践記録・実践報告*、*エスノグラフィー*、*協働エスノグラフィー* *主観による主観の客観化*	面談、振り返り 日記の記述、自己評価、相互評価、*対話*、*省察−観想*、*ナラティブ・アプローチ*、*オート・エスノグラフィー*、*創作叙事詩・解題*、*ルカーワ型テスト*、 *HOPE 評価（Holistic, Ownership−based, Participatory, Empowering）* *目前心後・離見の見*、*間主観（相互主観）性の世界へ*
研究方法	*仮説検証型研究（定量的、量的研究）*	*仮説検証型研究（定量的、量的研究）* *仮説生成型研究（定性的、質的研究）* *量的・質的研究方法の統合*、*質的研究の多様性*	*学校フィールドワーク*、*研究対象と主体との協働研究*、*当事者研究* *質的研究入門（フリック）*　*アーツ・ベイスド・リサーチ（金田卓也）* （*詩、物語、絵画、パフォーマンス等そのものが研究成果物*）
組織マネジメント	*ヒエラルヒー型（垂直方向）*	*ネットワーク型（水平方向）*	*サーバントリーダーシップ型（水の思想・川の組織論、循環）*
各学校種別傾向性	*大学院（修士課程）・大学・高等学校・中学校等*	*教職大学院（専門職課程）・小学校・幼稚園・保育所等*	*特別支援学校*、*一部私立学校（自由学園等）*、*NPO 法人立学校等*

吉田敦彦（1999:281）「表3　教育諸理論の三層包括的分類」（『ホリスティック教育論―日本の動向と思想地平―』日本評論社）をもとに、筆者が加筆・修正（*斜体字部分*）を重ね続けている表である。　枠　:2017.2.4 付加

カリキュラムを俯瞰するための「３つの学習スタイルの関係構造」を読み解く：2017.2.4 成田喜一郎



（3）変容・創成（トランスフォーメーション）：児童生徒・教師の変容（主体変様*idiomodification）　*黒田正典（2002:277）

Be　知識・概念・スキルの創成（創成・生成・構成）

本質的で根源的な問いとそれへの応答（レスポンス）
永続的な理解、理解の6側面（説明、解釈、洞察・展望、応答、共感・違和感、自己認識）、学ぶ意味
多様な価値観との共存、論理と直観（洞察・気づき）、間主観性(相互主観性)
ホリスティックな学び**（あらゆるものとのつながり・つりあい、つつみこみ、つづく／つづける）
ベイトソンの学習階型：学習Ⅲ

（2）交流（トランスアクション）：児童生徒同士

Do　知識・（概念）・スキルの交流、生徒による習得・活用・探究

単元質問・調べ学習、思考・表現、論理・実証性
経験主義的問題解決学習、主観の客観化
ベイトソンの学習階型：学習Ⅱ

（1）伝達（トランスミッション）：知識・（概念）・スキルの伝達、教師→児童生徒

Have　知識(概念)・スキルの習得・定着、記憶の記銘・保持・想起

内容質問・一問一答　系統主義的知識注入学習、客観性の重視（主観性の排除）
ベイトソンの学習階型：学習Ⅲ

図　「3つの学習スタイルの関係構造」（筆者作成 2017.2.4）

**ホリスティック　Holistic の訳　：　[哲学]全体論の、「医学」全体観的治療の　全人的、全連関的、全人・全連関的、　・Holistic　←　Whole, Health, Heal, Holy
ホリスティックな学びとは、 あらゆるひと・もの・こととのつながり・つりあい、それらのすべてをつつみこみ、つづく／つづける、意味ある深い学びを引き出す営みのことである。
その背景に哲学、心理学、歴史・社会学、アート・芸道などがある。（成田喜一郎 2015.12.28）
論理と直観、学問と生活、分析と総合、有為と無為、客観性と主観性（間主観性）など・・・二項対立を超える(止揚 aufheben する、架橋・往還を続ける)概念
つながり（関係性）：環境（物）・他者・自己との対話・共生をめざす長く険しいプロセス、切れかかった「つながり」を回復すること、新たな「つながり」を発見できるか
つりあい（均衡性）／つつみこみ（包括性）：論理と直観（気づき・ひらめき）、有為と無為、客観と主観（間主観性）、愛憎、正邪、清濁、上下、左右、縦横、男女、長幼、新旧、寒暖、今昔など、
幾多の二項対立（やその狭間を含む三竦み・鼎立）を超えて、時空間・人間（じんかん）を生きることができるか
つづく/つづける（持続可能性と持続不可能性との鬩ぎ合い）：個体の生／死を超える、世代間継承の可能性／不可能性、希望と絶望とがせめぎ合う現実を前に、それでも生き続けていこうと
する、それでも人生に Yes と言えるか

【主な参考文献】　ジョン・P・ミラー（1994）吉田敦彦・中川吉晴・手塚郁恵訳『ホリスティック教育：いのちのつながりを求めて』春秋社
ベイトソン（2000）佐藤良明訳『精神の生態学』新思索社
黒田正典（2002）「東洋と西洋：主体変様的認識と客体観的認識」『心理学の哲学』北大路書房，渡辺恒夫・村田純一・高橋澪子編，pp.273-303

参考資料 1-2（吉田 1999:281）

表 3　教育諸理論の三層包括的分類

	伝達 トランスミッション	交流 トランスアクション	変容 トランスフォーメーション
思想哲学	アトミズム デカルト＝ニュートン 論理実証主義，分析哲学	プラグマティズム 構造主義 認知発達学	ホーリズム エマーソン，ハイデガー キルケゴール，ブーバー 東西の宗教的神秘主義的伝統 ポスト・ニュートン科学 ベイトソン，ボーム
教育学	ボビット，スキナー ブルーム カルナップ	デューイ，ピアジェ コールバーグ，シュワップ	「実存主義と現象学」的教育哲学，フレーベル，シュタイナー，フレイレ ケアリング教育学
心理学	行動主義心理学	認知発達心理学	深層心理学 トランスパーソナル心理学
教育目的	基礎的技能・基本的知識の伝達	合理的な問題解決力・判断力・合意形成能力の育成	意志＝感情＝思考＝精神の関係深化。意味や価値の自覚
教育課程	教育内容に焦点。教科中心系統的カリキュラム	問題解決プロセスに焦点。経験中心カリキュラム	多層的関係性に焦点。出会い・気づき・覚醒等の重視
教育方法	講義形式，プログラム学習 練習・ドリル・反復 完全習得学習	探求学習，発見学習，意思決定モデル，グループ調査研究，個別学習，ケーススタディ，道徳的ディレンマ	創造性開発性思考法，つながりを深める教授，協同的学習，イメージワーク，ホール・ランゲージ学習，ムーブメント
主な資源	教科書	さまざまな知的刺激	教師の人間性・存在そのもの
評価方法	標準テスト，選択テスト，正誤テスト，完成テスト	チェックリスト，観察と記録，意思決定記述の評価，質問紙	面談，振り返り日記の記述，質問紙，自己評価，相互評価
(ベイトソンの学習階型；〈学習Ⅰ〉		〈学習Ⅱ〉	〈学習Ⅲ〉)[8]

参考資料 2　戦後日本における学習指導要領の変遷と教師のライフヒストリー―社会科教育を中心に― 2016 年版（2017.2.4）

成田喜一郎／東京学芸大学

【Ⅰ】現代日本教育史の中の社会科教育（1）初期社会科・経験主義的社会科の出発

左寄せ　　右寄せ

↓現代日本教育史及び学習指導要領等のあゆみ　　日本現代史及び◆教師 N のライフヒストリー等↓

（ ）内は月を示す、下線は勤務学校等・編者関連の事項、◇筆者に影響を与えた文献

沖縄戦(6)、アメリカによる原爆投下により広島・長崎の被爆、アジア太平洋戦争の終結(8)1945

1945 文部省「新日本建設ノ教育方針」、「終戦ニ伴フ教科用図書取扱方ニ関スル件（教科書墨ぬり開始）」(9)、1945 戦時教育令廃止(10)、GHQ「教育に関する指令（軍国主義教育の禁止）」(10-12)、修身・日本史・地理授業停止(12)

1946 第一次米国教育使節団来日（教育民主化・分権化勧告）(3)、文部省「新教育指針」(5)、地理再開(6)・日本史再開(10)、教育刷新委員会官制公布（内閣直属）(8)、教育勅語奉読廃止通牒、「くにのあゆみ上・下」発行(9)、文部省、男女共学実施を指示(10)

1946 日本国憲法の公布(11)、義務教育九年（6・3・3）制(12)

1947 学習指導要領に準拠して教科書検定を行うと告示(2)、教育基本法・学校教育法の公布、教科書検定規定・基準等の決定(3)

※アメリカのヴァージニア・プラン、カリフォルニア・プランの影響を受ける。「地域教育計画」（川口プラン 1945）、「コア・カリキュラム」（北条プラン 1946）等のカリキュラム運動が展開。

1947★①文部省「学習指導要領一般編（試案）」「教科編」発行(3)

→「教科課程は、それぞれの学校で、その地域の社会生活に即して教育の目標を吟味し、その地域の児童青年の生活を考えて、これを定めるべきものである。」

社会科の誕生。経験主義・問題解決学習。（中学社会の時数（以下、左記の表記は略す）:175／140+国史 35／140+国史 70）

小/男女共修家庭科新設、自由研究、中/職業科設置。　　東京第三師範学校附属中学校（東京学芸大学附属大泉中学校の前身）の創立(4) 1947

1947 日本国憲法の施行(5)　　日本教職員組合（日教組）結成大会(6)1947

◆父、シベリア抑留から解放され、ナホトカより帰国(6)1947

1947 文部省「**あたらしい憲法のはなし**」（中学校 1 年用教科書）刊行(8)　　国家公務員法公布（10)、児童福祉法公布・改正民法公布(12)1947

1948 教育委員会法公布(7)、公選教育委員会発足(11)　　松原元一（初代主事=校長）『新しい中学校』文耀社 1948

1949 教育公務員特例法(1)、教科用図書検定基準告示(2)

文部省設置法公布（教育課程審議会設置）、教育職員免許法公布、国立学校設置法公布(5)

中・高の「生徒指導要録」制定(8)、全国教育長会議「赤い教員追放」決議(9)　　冷戦体制、中華人民共和国の建国(10)1949

私立学校法公布(12)　　**東京第三師範学校附属中学校『中學校カリキュラムの構成』同學社 1949**

→生徒の実態調査、教員・保護者とで「教育目標」の設定、各学年「社会科」0 時間、「単元」12 時間、問題解決学習・経験主義的カリキュラム

東京学芸大学大泉附属中学校『中学校ガイダンス実践』同學社 1949

都教育庁、教員 246 名のレッドパージ発表(2)、図書館法公布(4)

第二次米国教育使節団来日・報告書（教育投資、人的資源、民主教育の反共的役割）(9)

1950 文部省『**あたらしい憲法のはなし**』副読本に降格　　朝鮮戦争(1950.6-1953.7) 1950

1950 国旗掲揚、君が代斉唱についての通達(10)、地方公務員法公布(12)　　**東京学芸大学大泉附属中学校『特別教育活動の実践』同學社 1950**

天野貞祐文相、修身復活等を表明(12)

1951 教課審、道徳教育振興に関する答申(1)　　修身復活反対、「教え子再び戦場に送るな」（日教組）(1)1951

文部省、道徳教育振興方策を発表（道徳科特設せず）(2)

昭和 26 年度に入学する児童に対する教科用図書の給与に関する法律(3)　　東京学芸大学附属大泉中学校と改称(4)1951

サンフランシスコ講和会議・平和条約、日米安全保障条約(11)1951

1951★②文部省「学習指導要領一般編（試案）」改訂発行 (7)

→国史→日本史。「伝統の軽視、道徳性の希薄、学力の低下、無国籍的性格等」批判に受けるが、問題解決学習中心の単元学習を堅持。自由研究→小/教科外活動、中/特別教育活動へ、中/体育→保健体育、中/職業科→職業・家庭科。　　◆父・母、結婚(4)1951

1952 天野貞祐文相、道徳教育強化で高校に倫理科新設を表明(2)　　◆成田喜一郎、誕生(2) 1952

対日平和条約・日米安全保障条約発効（GHQ 廃止）(4)1952

1952 文部省『**あたらしい憲法のはなし**』刊行中止

文部省、幼稚園基準発表(5)、中央教育審議会令公布(6)、義務教育費国庫負担法公布（給与の半額、教材費の一部負担）(8)、吉田茂首相、愛国心養成の修身・国史・地理復活表明(8)、市町村教育委員会、全国一斉に発足(11)

1953 中教審設置(1)・義務教育に関する答申(7)、学校教育法・教育委員会法等の一部改正（教科書検定権→文部大臣）(8)、学校図書館法・理科振興法公布(8)、公立学校施設費国庫負担法公布(8)、市町村教育委員会の廃止、任命制の導入(10)

1954 中教審、教育の政治的中立性維持に関する答申(1)　　第五福竜丸、アメリカのビキニ水爆実験により被爆(3)1954

へき地教育振興法公布、盲学校・聾学校及び養護学校への就学奨励に関する法律公布(6)、義務教育諸学校における教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法、教育公務員特例法一部改正、学校給食法公布(6)　　防衛庁設置法、自衛隊法公布(6)1954

経済の高度成長時代 1950 年代半ば～1970 年代半ば

【Ⅱ】現代日本教育史の中の社会科教育（2）経験主義から系統主義への転換

◆はじめての弟の誕生(3)、成田喜一郎、幼稚園に入園(4) 1955

M 君が自由画帳に描いた「原爆」の絵の記憶(背景に冷戦、第五福竜丸事件)

1955 日本民主党「うれうべき教科書の問題」、「偏向教科書」摘発(8)、日本学術会議「学問の自由を脅かす」と結論(10)

1955 文部省「高等学校学習指導要領一般編」全面改訂発行、「小学校学習指導要領社会科編」改訂発行(12)

→経験主義から系統主義への転換、義務教育一貫、内容の精選、社会科（地理、歴史、政・経・社）、学年別単元から分野制への転換、道徳的な理解・判断の育成。

「試案」の文字が消える。

1956 文部省「幼稚園教育要領」制定、「中学校学習指導要領社会科編」改訂発行(2)

→中学校社会科の解体、地理・歴史・一般社会、「試案」の文字は消える。就学困難な児童のための教科用図書の給与に対する国の補助に関する法律(3)

日本高等学校教職員組合（日高教）結成(5)1956

地方教育行政の組織及び運営に関する法律公布(6) →任命制教育委員会発足(10) 、文部省、初の学力調査（抽出）実施 (9)、教科調査官設置(10)

国際連合への加盟(12)1956

1957 文部省「盲・聾学校小学部・中学部指導要領(一般編)」通達(3)

松永東文相、道徳に関する独立教科の設置表明(8)、文部省「勤務評定」実施通達(8)、教科審「道徳の特設の基本方針」決定(10)

ソ連、人工衛星スプートニク 1 号打ち上げに成功(10)1957

中教審「科学技術教育の振興方策についての答申」(11)、学校教育法施行規則一部改正（教頭の職制化）(11)

日教組、勤務評定反対闘争強化決議「非常事態宣言」発表(12)

1958 文部省「道徳実施要綱」通達（道徳を週1時間特設）(3)、学校保健法公布(4)、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律公布（50 人学級→1963 年 45 人学級）(5)

◆成田喜一郎、小学校へ入学(4) 1958

担任・辻泉先生 1 年・岸本ツネ先生 2,3 年（いじめ）、西澤宏男先生 4,5,6 年（サッカー、ロシア民謡、詩、白子川散策・やまかがし、新聞づくり・社会科との出会い）

狩野川台風(9)1958

1958★③文部省「小・中学校学習指導要領道徳編」告示(8)、「小・中学校学習指導要領」全面改訂告示（法的拘束力）(10)→小/1961 年、中/1962 年実施

→「道徳」の新設。「各教科」「道徳」「特別教育活動」「学校行事等」の４領域。小中一貫と内容の精選、中学校社会科三分野制を原則、学年別の系統性（ザブトン型）、歴史における国民の自覚と責任。（140・175・140）

1958 文部省「教科用図書検定基準」告示(12)

メートル法（尺貫法廃止）実施(1)1959

1959 文部省「新教育課程講習会」主催(7)→各地で不参加闘争、改訂学習指導料要領による社会科教科書の検定強化が問題化(8)1959

伊勢湾台風(9)、国連総会「児童の権利宣言」採択(11)1959

小学校教科書検定で 82％が不合格、日本学校安全会法公布、中教審「特殊教育の充実振興についての答申」(12)

1960 文部省「盲・聾学校小学部・中学部指導要領(一般編)」通達(2)、「高等学校学習指導要領」全面改訂告示(10)

→「倫理社会」の新設・必修化。「各教科」「特別教育活動」「学校行事等」の３領域。「道徳教育の徹底」「基礎学力の充実」「科学技術教育の向上」「職業陶冶の強化」「学習指導要領の基準性の明確化」

安保闘争、新日米安全保障条約批准・発効(6)1960

経済審議会「所得倍増計画による長期教育拡充計画」答申(11)

1961 スポーツ振興法公布、学校教育法一部改正（五年制高等専門学校設置）(6)、文部省、中学 2,3 年生全員に全国学力一斉学力テスト（5 科）実施(10)

1962 義務教育諸学校における教科用図書の無償に関する法律公布(3)、防衛庁、各省政務次官会議に「学校教育に関する要望書」（愛国心・国防意識の高揚）提出(4)

◆二人目の弟誕生(8)1963

1963 文部省、教師用『道徳教育の手引き』作成・全教師に配布(4)、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律公布(12)

1964 文部省「特殊教育振興方策」発表、都道府県に養護学校義務づける(1)、「幼稚園教育要領」告示。 ◆成田喜一郎、中学校に入学(4) 1964

担任：本多静枝先生 1（数学）、佐治巌先生 2（理科）、住釜秀司先生 3（技術・家庭）

柔道、『エレクトロニクスの話』『ガモフ全集』、天気図・台風の研究、ギター、演劇との出会い、生徒会長

東京オリンピック開催(10)1964

【Ⅲ】現代日本教育史の中の社会科教育（3）覚える社会科から考える社会科へ

米国が北ベトナムを爆撃開始(2)1965

東京学芸大学附属大泉中学校に「帰国子女教育学級」を設置（国立学校で初）(4)1965

中国、文化大革命の開始(5)1965

1965 中教審「期待される人間像」（奉仕の精神・開拓者精神・愛国心）中間発表(1)、 文部省「第一回道徳教育研究発表大会」開催(2)、「生徒指導の手引き」（非行増加対策）作成・配布(4) 、家永三郎、教科書検定を違憲として国家賠償請求の民事訴訟提訴(6)1965

同和対策審議会答申(8)1965

ユネスコ特別政府間会議「教師の地位に関する勧告」(10)1966

中教審「後期中等教育の拡充についての最終答申」で「期待される人間像」別記(10)1966

◆成田喜一郎、高校に入学(4)1967

担任：藤樫先生 1（化学）、大室先生 2（数学）、早野国次郎先生 3（保健体育）

陸上部/放送劇部、高校紛争・ベトナム反戦・沖縄返還、生徒議会議長団、3 年間なかった卒業式

国語科非常勤講師・阿部先生の自由課題「短編小説を書く」

家永三郎、文部大臣に対し、教科書検定不合格処分の取消しを求める行政訴訟提訴(6) 1967

文部省、教材基準通達（社会科で神話・伝承を導入、歴史教育の改善等）(8)

公害対策基本法公布(8)、佐藤栄作「非核三原則」言明(12)1967

東大紛争(1)をはじめ全国 115 大学で紛争・高校紛争 1968

1968★④文部省「小学校学習指導要領」全面改訂告示(7)→1971 年実施

同和対策事業特別措置法公布(7)、明治百年記念式典(10)1968

附属大泉中学校、第1回帰国子女教育研究協議会「帰国子女教育の現状と諸問題」開催(11) 1968

1969★④文部省「中学校学習指導要領」全面改訂告示(4)→1972 年実施★

→小・中ともに「各教科」「道徳」「特別活動」の 3 領域。中社会科の目標「民主的、平和的国家・社会の形成者として必要な資質を養う」「公民としての基礎的教養」、「政治・経済・社会的分野」→「公民的分野」の登場、「ザブトン型学習」→「地歴並行学習」、資料活用能力・思考力の重視。（140・140・175）数学、理科で教育内容の現代化を図る（教育の現代化）

東京学芸大学附属大泉小学校に帰国子女教育学級を設置(4)1969

米国宇宙船アポロ 11 号航空士、初の月面着陸(7)1969

◆成田喜一郎、遠山茂樹『明治維新と現代』との出会い、歴史学への興味・関心の高まり 1969

◆成田喜一郎、予備校生活 1970

英文解釈問題の中で歴史家 Edward Hallett Carr “*What is History?*”との出会い

大阪万博(3-9)、よど号ハイジャック(3)、日米安保条約延長(6)1970

家永教科書第二次訴訟、検定不合格処分取消判決(杉本判決)(7)1970

1970 文部省「高等学校学習指導要領」全面改訂告示(10)→1973 年実施 →「各教科に含まれる科目」「各教科以外の教育活動」の 2 領域

OECD 教育調査団「日本の教育政策に関する調査報告書」(10)1970

1971 文部省「小・中学校学習指導要領」一部改訂告示(1) →公害教育方針の明確化(国民の健康、生活環境を守る)

日本の高齢者 65 歳以上の人口が全人口の 7.1%となり「高齢化社会」に突入 1971

三島由紀夫の自決(11)1970

1971 文部省「盲学校・聾学校、養護学校小・中学部学習指導要領」告示(3)

◆成田喜一郎、大学に入学(4) 1971

中教審「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本施策についての答申」(6)

沖縄返還協定調印(6)、環境庁の設置(7)1971

1972 学校教育法施行規則一部改正(海外日本人学校の卒業者に高校入学資格)(2)

沖縄の本土復帰(5)、日中国交正常化(9)1972

◆成田喜一郎、早稲田大学放送研究会入部・脱退、早稲田大学歴史科学研究会の創立 1972

日本平和委員会『**あたらしい憲法のはなし**』復刻版刊行(11)1972

文部省「小・中学校学習指導要領」一部改正と弾力的運用について」通達(10)

1973 教職員免許法等一部改正(教員資格認定試験制度の創設)(7)

変動相場制への移行(2)、第一次石油ショック(10)1973、高度成長の終焉・低成長時代へ 1973

1974 学校教育の水準維持向上のための義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法公布(1)

東京学芸大学附属高等学校大泉校舎(唯一の帰国生だけの学校)の設置(4)1974

◆成田喜一郎、練馬区の公立中学校で 2 週間の教育実習(1,3 年の歴史の授業を担当、研究授業は「ロシア革命」)(6)1974

授業実践・生活指導・部活指導、先生方との交流、大学 4 年間で珠玉の時間

1974 学校教育法一部改正(教頭職の法制化)(6)

家永教科書第一次訴訟、現行教科書検定制度合憲、本件検定に一部不当性あり判決(高津判決)(7)1974

附属大泉中学校、第2回帰国子女教育研究協議会「帰国子女の学習適応に関する研究と課題」の開催(11)1974

◆成田喜一郎、大学院に入学(4)1975

ベトナム戦争の終結(4)

1975 全国町村会、学校管理者賠償責任保険制度設置(4)、文部省、学校教育法施行規則一部改正(主任制度化:小/7主任、中/5 主任、高/6 主任)(12)→1976 年施行

家永教科書第二次訴訟、文部省の控訴棄却(畔上判決)(12)1975

◆初めての歴史学研究論文、成田喜一郎(1976)「戦後日本における社会民主主義の形成:日本社会党の結党過程を中心に」『民衆史研究』第14号、pp. 155-168 (3)1976

◆早稲田大学学部時代の仲間の同人誌、よいどれ集団「カストリ1971」編(1976)『蒼生』(成田喜一郎「『瞑想の像』の生長」pp.26-33)(3)1976

1976 海外子女教育推進協議会報告「基本的施策について」(現地教育と帰国後教育の改善)(4)　◆成田喜一郎、中学校社会科非常勤講師着任(4)1976

東京学芸大学附属大泉中学校、「世界史先週学習」の試み、◆中1で週2時間の世界史授業を実践(4)1976

日教組「教育課程改革試案」(教科としての「総合学習」、三年ごとの四階梯制)(5)1976

附属竹早中学校・附属高等学校に「帰国子女」を混入方式で受け入れ(4)1976

1977 文部省「児童生徒の学校外学習活動に関する実態調査」発表(大都市で過半数塾通い)(3)

◆成田喜一郎、中学校社会科非常勤講師2年目(4)1977

1977★⑤文部省「小・中学校学習指導要領」全面改訂告示(7)→小/1980年、中/1981年実施

→「授業時数の削減と指導内容の精選」「基準の弾力化・大綱化」「ゆとりの時間」(学校裁量の時間)の新設。「小中高一貫教育」の重視。「自ら考え正しく判断できる力」の重視、「ゆとりある学校生活」、「徳育・体育」の重視→社会科の授業時数削減(公民5時間が2時間に140・140・105)

◆成田喜一郎(1978)『社会大衆党史論』(修士論文)(3)1978

◆安在邦夫・大田幸男ほか編(1989)『コンサイス学習人名辞典』三省堂(成田喜一郎「赤松克麿」「大山郁夫」「尾崎秀実」「妹尾義郎」「ゾルゲ」「スメドレー」を執筆)　1978

◆成田喜一郎、附属大泉中学校社会科教諭に着任(4)1978

1978 文部省「高等学校学習指導要領」全面改訂告示(8)→1982年(学年進行)実施　→「各教科以外の教育活動」を「特別活動」と改称。「現代社会」の登場

日中平和友好条約(8)1978

教課審「盲・ろう・養護学校の小学部、中学部及び高等部の教育課程の基準の改善について」(普通学校との交流促進)(10)

同和対策事業特別措置法3年間延長(→1981.3.31)(11)1978

1979 初の国公立大学共通一次学力試験実施(1)、総理府、青少年自殺問題懇話会設置(2)　米国、スリーマイル島原発事故(3)1979

◆成田喜一郎、附属大泉中学校で初めて学級(2年4組)を受け持つ (4)1979

養護学校義務教育制始まる(4)、東京・中野区、教育委員会準公選条例公布・施行(5)

1979 文部省「盲学校・ろう学校、養護学校小・中学・高等部学習指導要領」告示(7)

◆附属学校研究会大泉地区会(小・中・高の先生方の前)で研究授業、成田喜一郎「朝鮮通信使と唐子踊り」(11)1979

◆成田喜一郎が受け持つ2年4組生徒37名に社会科・学級担任としての成績通知表を書かせる(12)1979

文部省「第五次教職員定数改善計画案」発表(8)、小・中40人学級12年計画(12)

衆議院で検定済み教科書の書き換え問題化(2)1980

◆成田喜一郎、手書きの3年2組学級通信『週刊てだのふあ』刊行、(4)1980～(3)1981

1980 文部省「小・中学校指導要録の改訂方針」通達（小 1,2 は三段階評定・到達度評価加味）(2)、義務教育標準法等改正（小中で 1991 年度までに 40 人学級実現）(5)、文部省「児童生徒の非行防止について」（校内暴力続発への対応）(11)

1981 文部省「校内暴力事件の事例」作成・配布(4)、社会教育審議会「青少年の徳性と社会教育」(5)

◆初めての実践報告、成田喜一郎（1981）「国際協調をめざし、差別・偏見を克服するための授業：朝鮮通信使と唐子踊り」

『東京学芸大学附属学校研究紀要』第 9 集、pp.106-110 1981

1982 全国中学校校長会「校内暴力等についての指導事例」(4)日本学校保健会法公布（日本学校給食会法・日本学校安全会法廃止）(6)、文部省教科書検定結果発表（侵略→進出、天皇記述の敬語使用、国民義務の強制）→中、韓から抗議、外交問題に発展(6)、教科用図書検定調査審議会「歴史教科書の記述に関する検定の在り方について」(11)

1983 中教審「教科書の在り方について」答申(6)、文部省「『荒れる教室』実態調査」（7 校に 1 校が荒れている）(6)、「公立小・中学校の道徳教育の実施状況調査」(8)、教育職員養成審議会「教員養成及び免許制度の改善について」(11)、文部省「公立小・中学校の出席停止措置（自宅学習）の運用方針について」（通達）(11)　◆成田喜一郎、結婚(10)1983

◆私(異)年号「育喜元年」を使用、初心としての吉野弘「祝婚歌」

1984 文部省「全国国公私立高校中途退学者調査」（公立/65,314 人、私立/40,727 人）(1)、文部省、『荒れる教室』対策に教員重点配置を決定(3)、文部省「生徒の健全育成をめぐる諸問題―登校拒否問題を中心に―」（指導手引き書）の配布(4)、内閣総理大臣（中曽根康弘首相）諮問機関「**臨時教育審議会設置法**」公布と審議会の設置（第一次答申 1985、第二次答申 1986、第三次答申・第四次答申 1987）(8)　◆成田喜一郎、長女誕生(6)1984

1985 文部省、いじめの問題に関する指導徹底を通知(6)、文部省「特別活動の実施状況調査」（日の丸・君が代の徹底を通知）(9)、日本体育・学校保健センター法公布(12)、 ソ連、ペレストロイカ(3)1985　「帰国子女」数が 1 万人を突破 1985

◆帰国生 K 子から「農民ってわからない！農民って何？」という問いかけを受ける 1985

◆成田喜一郎、事実認識と想像力をつなぐ社会科叙事詩（のちの創作叙事詩）実践「それは悲惨な絵だった：殷王の墓」1985

チェルノブイリ原発事故(4)1986

日本を守る国民会議の高校教科書「新編日本史」検定合格が内外で問題化(6)1986

◆初めての社会科教育研究論文、成田喜一郎（1986）「『現代認識』を深める学習指導の実践的研究」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.26, pp.29-50 1986

（公民的分野、2カ年間の新聞学習 NIE 実践）

◆附属研究会大泉地区社会科部会（1986）「社会認識と国際理解　Ⅳ. 帰国子女をめぐる差別・偏見に関する研究序説」『東京学芸大学附属学校研究紀要』第 13 集, pp.87-106 1986

（1.はじめに：研究概要、5.まとめにかえて：成果と課題を成田が執筆）

1987 教育職員養成審議会「教員の資質能力向上方策等について」（初任者研修制度の創設、免許制度の改善等）答申(12)、教課審「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」（調和のとれた発達、生涯学習、個性を生かす教育、国際理解）答申(12)　「海外子女数」が4万人を突破 1987

ラーメン店・秋津屋店主、田浪政博、『復刻　あたらしい憲法のはなし』（新泉社）刊行 1987

1988 単位制高等学校教育規定施行(4)、教育公務員特例法一部改正（初任者研修の制度化：小/1989 年、中/1990 年、高/1991 年）(5)、文部省機構改革（社会教育局→生涯学習局）(7)、教科用図書検定審議会「検定制度改善の骨子」（二段階審査、検定概要公表、検定周期 4 年以上）(9)

◆初めての学会報告、成田喜一郎(1988)「第二次流通革命きにおける『消費者』の主体性を考える学習の構想:地域経済を学ぶ教師と親子のネットワークづくり」

(日本社会科教育学会第38回研究大会 福島大学で発表)(10)1988

◆成田喜一郎(1988)「『地域学習』研究序説:なぜ、いま「地域」なのか?」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.28, pp.45-68 1988

(地域論研究史の整理、総合的地域学習の実践)

裕仁天皇崩御、皇太子明仁皇位継承(1)1989

1989★⑥文部省「幼稚園教育要領」、「小・中学校・高等学校学習指導要領」告示(3)

→小/1992 年実施、中/1993 年実施、高/1994 年(学年進行)実施

→小「生活科」導入。中「選択教科の履修幅拡大」、「習熟度別学級編制導入」。高「男子の家庭科必修化」「地理歴史科・公民科に分割=社会科の解体」。道徳教育の充実・「生き方」の教育、「国際社会に生きる民主的.....」国際理解教育。(140・140・70～105)

国際化・情報化・環境問題の深刻化・少子高齢化、非行・暴力・いじめの深刻化

消費税スタート(4)、天安門事件(6)、国連総会「児童の権利条約」全会一致採択(11)1989

◆成田喜一郎、長男誕生(12)1989

◆成田喜一郎(1989)「コンビニエンス・ストアをめぐる調査研究から『消費』『食』『生活』を考える学習ネットワークの実践」『学校保健研究』通巻第 359 号 第 31 巻第 12 号 1989

冷戦の終結(12)1989

1990 新学習指導要領移行措置(道徳・特別活動全面実施)、小・中学校 40 人学級全面実施(4)、生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律(6)、生涯学習審議会発足(9)、国連本部「子どものための世界サミット」開催(9)、文部省「『校則』の実態調査」(11)→調査結果 1991 年(中高の 7 割が校則見直し)

◆附属大泉中学校、岩手県和賀郡沢内村(現西和賀町)修学旅行の実践(沢内中学校の中学生との交流)(5)1990

◆成田喜一郎(1990)「日中教育交流体験とその教材化の方法 : 上海・華東師範大学における「授業実践」を中心に」

『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.31,pp.11-30 1990

東西ドイツの統一(10)1990、湾岸戦争の勃発(1)1991

1991 文部省「小・中学校指導要録」改訂(観点別学習状況の評価)→小/1992 年、中/1993 年実施(3)

南アフリカ共和国、アパルトヘイト終結宣言(6)1991

文部省「学校基本調査」(「登校拒否」依然増加、高校進学率 95.4%)発表(8)

◆附属大泉中学校、文部省・教育方法等改善研究「帰国子女と一般生の相互交流を柱とした新しい帰国子女教育の方法」1991-1993

ソ連の解体(12)1991

◆成田喜一郎(1991)「社会科・歴史教育の方法と課題 : 現在史と自分史との対話による」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.32 pp.17-411991

1992 文部省調査(高校中退 123,500 人)(1)、学校不適応対策調査研究協力者会議「登校拒否問題について」(最終まとめ)(3)、文部省「学校基本調査」(学校嫌いで年間 30 日以上欠席の児童生徒 67,000 人)(8)、民間施設での相談・指導も出席扱い(9)、学校週 5 日制実施(幼・小・中・高、第二土曜日が休み→1995 年は月2回休み→2002 年より完全実施)(9)、文部省「業者テスト利用実態調査」(偏差値を提供しないよう文部省が指導)(11)

ブラジルで地球サミット開催・気候変動枠組条約への署名(6)1992

◆附属大泉中学校 45 期生、岩手県下閉伊郡田野畑村修学旅行の実践(田野畑中学校の中学生との交流)(5)1992

◆成田喜一郎(1992)「石油の総合的研究―今、私たちにとって『石油』とは何か―」柿沼利昭・成田喜一郎ほか編『新訂 中学校社会科指導事典』東京法令, pp.465-468(5)1992

◆成田喜一郎(1992)「コンビニエンス・ストアと私たちの暮らし」佐島群己編『新社会科授業論』教育出版, pp.153-159 (6)1992

◆成田喜一郎「『世界史 A』における近・現代朝鮮:中学校社会科歴史教科書との比較」

『増補版 朝鮮・韓国は日本の教科書にどう書かれているか:相互理解のために日本からの報告と韓国からの発言』梨の木舎,pp.248-254 (11)1992

1993 文部省「教員の心の健康管理について」(相談室の設置促進を提言)(6)、「学校基本調査」(登校拒否、年間 30 日以上の児童生徒数約 72,000 人)(9)

◆第 43 回 日本社会科教育学会 全国研究大会(東京学芸大学)シンポジウム「小中高一貫の『社会科』の可能性を探る」

(成田喜一郎、北俊夫、宮原武夫、水越敏行が登壇。成田「小学校・中学校・高等学校を貫く『社会科教育』の見直しと展望:『地域社会科協同研究会』の提案」)(10)1993

◆附属大泉中学校、教育研究協議会「帰国生と一般生との相互交流をめざす教育方法の研究－帰国生の発言力を生かすディベートの実践－」の開催＊ディベート研究 (11)1993

◆成田喜一郎中3担任・学年主任・進路指導主任、長女病気・入院(12)1993

◆成田喜一郎(1993)「帰国生が生き, 一般生が生きる社会科教育の実践(1)―今こそ, 授業と学習スタイルの転換を―」

『海外子女教育』No.249、海外子女教育振興財団、1993 年 11 月号、pp.36-39

◆成田喜一郎(1993)「帰国生が生き, 一般生が生きる社会科教育の実践(2) ―『授業』から『協同学習』への転換―」

『海外子女教育』No.250、海外子女教育振興財団、1993 年 12 月号、pp.36-39

気候変動枠組条約の発効(3)1994

1994「児童の権利条約」公布・発効(5)、「学校基本調査」(登校拒否、年間 30 日以上欠席の児童生徒数約 75,000 人)(8)　　高齢者人口の割合 14%を突破、高齢社会への突入 1994

◇ジョン・P・ミラー『ホリスティック教育 いのちのつながりを求めて』春秋社との出会い 1994

◆成田喜一郎(1994)「『牛乳パック回収運動』はやめるべきである?!―学校発・地域に学ぶ消費者ネットワーク―」

佐島群己・奥井智久編『中学校環境教育ガイドブック』教育出版, pp.- ()1994

◆成田喜一郎(1994)「社会科教育における'CORE'概念について :「共生共存」論ノート」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.35, pp.41-58 1994

◆成田喜一郎(1994)「エイズの患者や感染者との「共生共存」を探る社会科の授業 : 本音に迫る「ミニ・ディベート」の試み」『同上』No.35,pp.59-78 1994

阪神・淡路大震災(1)、地下鉄サリン事件(3)1995

◆初めてのホリスティック教育論文、成田喜一郎(1995)「"Holistic Curriculum"とは何か―一中学校社会科教師の視点で考える―」

『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.36, pp.1-16 (3)1995

1995 文部省「平成 5 年度公・私立における中途退学者数の状況」(94,065 人)発表(2)、「いじめ対策緊急会議」最終報告(いじめる生徒の出席停止、養護教諭の役割重視)(3)、第 15 期中教審発足(与謝野馨文相諮問「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」)(4)、第 3 期生涯学習審議会発足(5)、「学校基本調査」(登校拒否児童生徒 77,000 人で過去最高を記録)(8)

◆堀内順治・成田喜一郎(1995)「帰国子女教育における相互交流学習」佐藤郡衛編『転換期に立つ帰国子女教育』多賀出版、pp.167-202 (2)1995

◇ホリスティック教育研究会編『ホリスティック教育入門』、『実践ホリスティック教育』柏樹社 1995

◆成田喜一郎「ねりま・地球環境とリサイクルを考え行動する中高生のぐる～ぷ Ie2（ｱｲﾂｰ）」の発足：市民・行政・教員による支援。見学・体験調査・現地ディベートの実践「リサイクルへの協力よりごみを出さない努力の方を重視すべし」（1995 中央防波堤埋め立て処分場見学）、「牛乳の容器として紙パックよりガラスびんを使うべし」（1996 板橋区エコポリスセンター・資源化センター・第一硝子工場見学）、「フリマをやるより買い控えをすべし」（1996 区内フリマ＝フリーリサイクルマーケット体験）、「トトロの森清掃ボランティア参加」（1997）、「僕らが発信する！エコライブ’98『中高生が考える環境・リサイクル』」（1998 光が丘区民センター）、「学校内でリサイクルを進めるよりゴミを出さないようにすべし」（1998 杉並中継所見学・石神井公園「音の環境教室」・練馬清掃工場見学）、「ファイバーリサイクルをするよりも物を買わないほうがよい」（1999 古布問屋「共栄繊維株式会社」見学）、「緑の中、公園も心もリフレッシュ！廃品で作った楽器で演奏会をしよう！」（2000 武蔵丘陵森林公園「夢プラン」に応募）、「JR 東日本・上野駅のリサイクル工場・科学技術館見学」（2001）、「中・高生リサイクル探検ツアー『ホテルの生ごみリサイクルを見に行こう♪』上野国立科学博物館見学つき」（2001）「地球環境とリサイクルを考え行動する中高生のぐる～ぷ Ie2」のページほか　1995～2000

◆附属大泉中学校、文部省・カリキュラム改革調査研究「帰国生と一般生との相互交流を軸とした相互啓発を促す教科指導の実践的研究」1995-1997

◆成田喜一郎（1995）「日露戦争から『韓国併合』へ－伊藤博文・安重根、そして石川啄木の視点で考える－」

『教育科学 社会科教育別冊 近現代史の授業改革』第 2 号、1995 年 12 月,明治図書, pp.37-46 (12)1995

◆成田喜一郎（1995）「『自立共生・共生共存』を探る近現代史学習の方法：博文・重根・啄木の視点で学ぶ日露戦争から「韓国併合」へ」

（日本社会科教育学会第 45 回全国大会 新潟大学で発表）(10)1995

◆成田喜一郎（1995）「近代史における『人間史』学習」（第 9 回 日本教育技術学会 千葉大会で発表）(11)1995

◆成田喜一郎（1996）「『世界史 A』における近・現代朝鮮：中学校社会科歴史教科書との比較」

『増補版 朝鮮・韓国は日本の教科書にどう書かれているか：相互理解のための日本からの報告と韓国からの発言』梨の木舎, pp.248-254(6)1995

◆佐島群巳ほか編（1996）『環境教育指導事典』国土社（成田喜一郎「消費者教育」の項担当、pp.90-91） (9)1996

◆佐藤郡衛監修、成田喜一郎・堀内順治編著『世界と対話する子どもたち―国際理解教育とディベート』創友社 (9)1996

◆成田喜一郎（1996）「自立共生・共生共存をめざす社会科ホリスティック教育の実践：人・物・事・時・所などとのつながりを求めて」を報告

（第 46 回日本社会科教育学会・第 45 回全国社会科教育学会合同全国研究大会・茨城大学 課題研究「国際理解・民族の共生共存教育のあり方」）(9)1996

1996 文部省「平成 6 年度公・私立における中途退学者数の状況」(96,401 人）発表(2)、児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議「いじめの問題に対する総合的な取り組みについて」最終報告(7)、第 15 期中教審第一次答申（生きる力の育成、ゆとりの確保）(7)

◆成田喜一郎（1996）「中学校/第 1 学年・学級における『ホリスティックな教育』のすゝめ方 ： 子どもたちと教師の「主体変様」をめざす試み」

『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.37、pp.27-72

【Ⅳ】現代日本教育史の中の社会科教育（4）総合的な学習の時間の登場

1997 文部省「平成 7 年度公・私立における中途退学者数の状況」(98,179 人）発表(2)、第 16 期中教審第一次答申（中高一貫校の導入等提言）(6)、「学校基本調査」（不登校児童生徒数 94,000 人、過去最高を更新）(8)、教課審「教育課程の基準の改善の基本方針」（中間まとめ、総合的な学習の時間の導入）(11)　消費税アップ 5%(4)、神戸連続児童殺傷事件(2-6)

◆成田喜一郎（1997）「ホリスティック教育の理論と方法：中学校社会科『宮沢賢治・井上陽水と子どもたちとのつながり」」日本国際理解教育学会」(6) 1997

◇ジョン・P・ミラー『ホリスティックな教師たち』学研 1997

◆成田喜一郎「社会科『叙事詩』論序説：事実認識と想像力とをつなぐ」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No38,pp.39-54 1997

◆成田喜一郎「修学旅行・岩手県和賀郡沢内村を訪ねて：いのちのつながりを学ぶ子どもたち」『季刊ホリスティック教育』新装創刊 3 号, pp.65-71 (6)1997

◆成田喜一郎「社会科における『ホリスティックな教育』の実践―『共生・共存』をめざす〈つながりかかわり〉を求めて―」『現代のエスプリ』NO.355, pp.169-176 (6)1997

◆初めての単著、成田喜一郎 『中学校社会科授業ディベートの理論と方法―「自立共生・共生共存」をめざす』明治図書 1997

◆附属大泉中学校、教育研究協議会「相互啓発を促す教科指導の実践的研究－帰国生と一般生との相互交流を視野に入れて－」の開催

＊多様な表現方法を生かす教科指導(11)1997

◆成田喜一郎「歴史学習におけるホリスティックな教育をめざして：自立と共生」（日本社会科教育学会第 47 回全国研究大会）(9)1997

地球温暖化防止京都会議(12)1997

1998 教育課程審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について（答申）」 (7)1998

◇奥村隆『他者といる技法：コミュニケーションの社会学』日本評論社 1998

◆成田喜一郎「わたくしの中のホリスティック教育―宮沢賢治と井上陽水と子どもたちのつながり―」『ホリスティック教育研究』第 1 号 1998

◆附属大泉中学校、校内研究「総合学習時代の教科カリキュラムの開発―帰国生の『広義の適応』を視野に入れて―」開始 1998

◆附属大泉中学校、新潟県佐渡島修学旅行の実践（「教科とつながり教科を超えた旅での学び」）(5)1998

教育職員養成審議会「大学院の修士課程を積極的に活用した教員養成の在り方について」第二次答申(10)

1998★⑦文部省「幼稚園教育要領」、「小・中学校学習指導要領」告示(12)

→「生きる力」、「各教科」「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の 4 領域。授業内容・時数の縮減。選択教科の履修幅の拡大。（105・105・85）

◆光ファイバー網を利用した学校ネットワーク活用方法研究開発事業の実践研究校の指定（研究テーマ「小学校・中学校・高等学校における帰国子女教育・国際理解教育のためのネットワーク活用」1998-2000

「対人地雷の使用、貯蔵、生産及び移譲並びに廃棄関する条約」を批准(9)1998

◆成田喜一郎（1999）「一斉指導とそうでない学習指導とのつながりを」『授業研究 21』No.491、明治図書、1999 年 1 月号、pp.43-45 (1)1999

1999 文部省「高等学校学習指導要領」告示(3)

→「情報」（必修）の新設。「学校設定教科・科目」の新設。「各教科」「特別活動」「総合的な学習の時間」＊小・中・高のすべてに「 総合的な学習の時間」の登場。

男女共同参画社会基本法成立(6)、東海村臨界事故(9) 1999

◆成田喜一郎（1999）「〈総合的な学習〉時代における社会科教育のあり方：ホリスティックな教育の視点から」（課題研究「総合的な学習と社会科との関連」）(10)1999

教育職員養成審議会「養成と採用・研修との連携の円滑化について」第三次答申(12)、中教審「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」答申(12)

◆文部省『よりよい出会いのために 帰国子女教育実践事例集』ぎょうせい 1999

◇吉田敦彦『ホリスティック教育論』日本評論社 1999

◆成田喜一郎（1998）「「歴史教育の方法と課題」再考 ： 歴史上の人物と「サイコヒストリー」との関わりを中心に」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.39, pp.31-44 1999

◆成田喜一郎「本校の帰国子女教育史における『適応』概念の変遷」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.40, pp.93-104 2000

2000 学校教育法施行規則一部改正（職員会議の位置づけ、学校評議員制度、校長・教頭の資格要件の緩和）(1)、改正教育職員免許法成立(3)、中教審「少子化と教育について」報告(4)、**中教審「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」で「教職課程の質的水準の向上」「教職大学院の設置」「教員免許更新制の導入」を目指す(7)**、「学校基本調査、生徒指導上の諸問題の現状調査」（不登校児童生徒 130,000 人、校内暴力 31,000 件、いじめ 4 年連続減少）(8)、教課審「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（絶対評価の工夫と個人内評価の工夫）答申(12)、教育改革国民会議「教育を変える十七の提案」最終報告(12)　　改正少年法成立（刑事罰対象年齢 14 歳以上）(11)2000

◆成田喜一郎、WebSite「ときのまほろばを求めて」を開設(11)2000

◆教育研究協議会「大泉地区光ファイバー網を利用した学校ネットワーク活用方法に関する研究－総合的な学習・教科における情報活用実践報告－」の開催（平成 12 年 11 月）2000

◆文部科学省・研究開発学校指定・研究課題「文化的・社会的に多様化する生徒特性に対応する中等教育学校構想を視野に入れた教育課程の編成に関する基礎的研究」（本校と附属高等学校大泉校舎との共同研究）2001-200

2001 文部省から「文部科学省」へ、「21 世紀教育新生プラン」策定(1)、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律成立(3)、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律成立（教育委員会の活性化、不適格な教員の他の職種への異動等）(6)、学校教育法の一部を改正する法律成立（社会奉仕体験活動等の充実、小中学校における出席停止制度の要件の明確化等）(6)、「学校基本調査」（不登校児童生徒数 134,000 人、過去最多を更新）(8)、「生徒指導上の諸問題の現状」調査（校内暴力 34,595 件、過去最多）(12)

◆成田喜一郎（1998）「「歴史教育の方法と課題」再考 ： 歴史上の人物と「サイコヒストリー」との関わりを中心に」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.39, pp.31-44 1999

小泉純一郎内閣発足(4)2001

大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件（6/8.2001）2001

大阪教育大学附属小学校事件に関する文部科学大臣談話（6/8.2001）2001

米国同時多発テロ（9/11 米国貿易センタービルの倒壊等）2001

米国によるアフガニスタンへの報復攻撃 2001

◆附属大泉中学校、教育研究協議会「総合学習時代の教科カリキュラムの開発―帰国生の『広義の適応』を視野に入れて―」の開催（筆者が研究主任） 2001

◆成田喜一郎「国際社会と平和を考える―なぜ、今、Landmines なのか―」（社会科公民・公開授業、NGO・JCBL、柴田知佐さんと連携）の実践（11）2001

東京学芸大学海外子女教育センターが東京学芸大学国際教育センターに改称 2002

2002 文科省「確かな学力の向上のための 2002 アピール―学びのすすめ―」(1)、中教審「新しい時代における教養教育の在り方について」「今後の教員免許制度の在り方について」(2)新指導要領の完全実施、学校五日制の完全実施(4)　　◆成田喜一郎、附属世田谷中学校に異動（人事交流）(4)2002

「学校基本調査」（平成 13 年度不登校児童生徒数 139,000 人で、過去最多更新）(8)、文科省「教育課程実施状況調査」（小中学校の学力テストで算数・数学、社会が低下傾向）(12)

住民基本台帳ネットワークシステムスタート(8)、日朝平壌宣言（9/17.2002）2002

◆成田喜一郎「中学生がみずからひらく『国際理解』への扉：選択学習『国際理解』基礎講座の試み」『国際文化フォーラム通信』NO.58, pp.12-13 (4)2003

◆成田喜一郎、公民研夏合宿で「日本におけるホリスティック教育のあゆみ 1996-2000：『季刊 ホリスティック教育』誌の分析を中心に」を報告 (8)2002

◆成田喜一郎「突発性難聴」を罹患、入院(9)2002

外国人児童生徒数 18,734 人、在籍校数 5,130 校、母語数 65 言語 2002

◆2002-2003 附属大泉中学校、体験入学の外国人生徒(韓国籍)への JSL-plus の指導 2002.9～2003.8

国連総会で「国連 ESD の 10 年」全会一致で採択(12)2002

◆成田喜一郎(2003)「「小学校社会科教育・教師の専門性に関する一考察―子どもたちたちの『学びの履歴 Learning Histories』の分析を中心に―」

『「広域科学としての教科教育学」構築のための実践論プロジェクト―小学校社会科を例にして―』プロジェクト代表・東京学芸大学大学院連合学校育学研究科長山下脩二、

平成13,14年度東京学芸大学教育改善推進費研究, pp.33-40 (3)2003

2003 中教審「新しい時代に相応しい教育基本法と教育振興計画の在り方について」答申(3)、文科省「各都道府県等における中高一貫校の設置・検討状況について」(34 都道県に 118 校設置)(4)、国立大学法人法など関連六法成立(7)→翌 2004 年 89 の国立大学法人スタート、「学校基本調査」(不登校児童生徒数 131,211 人、1991 年以来初めて減少)(8)、中教審「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」(10)　アメリカによる対イラク宣戦布告・イラク戦争の開始(3/15.2003)2003

◆成田喜一郎、附属大泉中学校副校長に昇任(4)2003

◆メンタル・サポートシステム、リーガル・サポートシステムを構築 2003.4-2007.3

少子化社会対策基本法成立(7)2003

◇ヘレナ・ノーバック・ホッジ『ラダック:懐かしい未来』山と渓谷社(ESD を地域:北インド・ラダックから考える基本文献、欲望の開発・幸福とは何か)2003

◆成田喜一郎「ホリスティック教育カリキュラム序説」中川吉晴・金田卓也編『ホリスティック教育ガイドブック』せせらぎ出版, pp.73-75 (3)2003

◆成田喜一郎「日本におけるホリスティック教育のあゆみ 1996-2000～『季刊 ホリスティック教育』誌の分析を中心に～」『ホリスティック教育研究』第 6 号, pp.39-49 (3)2003

◆成田喜一郎「アメリカ合衆国の多様性 Diversity を探る―子どもたちが見つけた光と陰―」

共同研究・代表 森茂岳雄『多文化社会アメリカを授業する―構築主義的授業づくりの試み―』 pp.58-73 (1)2003

◆附属大泉中学校・附属高等学校大泉校舎教育研究協議会「文化的・社会的に多様化する生徒特性に対応する中等教育学校構想を視野に入れた教育課程の編成に関する基礎的研究」(9)2003

2003 文部科学省「小学校、中学校、高等学校等の学習指導要領の一部改正等について」告示(12)

→「確かな学力」、「学習指導要領の基準性を踏まえた指導の一層の充実」、「各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが総合的に働くようにすること」、「中学校については、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を」、「教育課程の実施状況等について自ら点検及び評価」、「年間指導計画等について、保護者や地域住民等に対して積極的に情報提供を」　◆成田喜一郎、公開授業「お願い、地雷を取らないで」の実践(3)2004

2004 中教審「食に関する指導体制の整備について」(食に関する指導の充実、栄養教諭制度の創設)答申(1)、中教審「今後の学校の管理運営の在り方について」(地域運営学校制度の創設提言)答申(3)、「学校基本調査」「生徒指導上の諸問題の現状調査」(不登校児童生徒数 126,212 人、2 年連続減少。いじめ 23,351 件で、8 年ぶりに増加)(8)

◆成田喜一郎「『平和』ということばのない民族に学ぶ―ウィルタのゲンダーヌとの出会い―」

日本ホリスティック教育協会編『ピースフルな子どもたち―戦争・暴力・いじめを越えて―』せせらぎ出版, pp.216-219 (3)2004

◆成田喜一郎「学校の管理運営と教育実践—『副校長』の仕事を中心に—」『ホリスティックな教育改革の実践と構造に関する総合的研究(最終報告)』(研究代表・菊池栄治):管理運営と教育実践、水の思想・川の組織論の構築(老子の思想)2004

2004 国立大学法人化への移行、国立大学法人東京学芸大学・附属学校園の出発(4)　◆成田喜一郎、Blog「islikewater そう、水のように」を開始(4)2004

イラクで日本人人質事件(4/8)、イラク戦争の(戦闘)終結宣言(5/1)、裁判員制度法成立(5、2009 年より導入を予定)、新潟中越地震(10)、スマトラ沖地震発生(12)2004

◆寺澤満春、西武池袋線保谷駅北口でライブ活動開始(10)2004

◆成田喜一郎(2004)「東京学芸大学附属大泉中学校って、どんな中学校ですか?:あらまし編」『月刊 INFOE』No.1, 海外子女教育情報センター,pp.14-15(10)2004

2004 文部科学省「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」と解説(11)(翌 2006 年 2 月改訂版)

◆成田喜一郎(2004)「帰国生がやってきた!」『月刊 INFOE』No.2, 海外子女教育情報センター,pp.20-21(11-12)2004

2004 PISA(OECD 生徒の学習到達度調査)2003 の調査結果公表(12)　※読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー調査

2005 中教審答申「我が国の高等教育の将来像」(1) 知識基盤社会「21 世紀は, 新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す, いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代」

◆成田喜一郎(2005)「素敵な知と心の刺激がいっぱい!」『月刊 INFOE』No.3, 海外子女教育情報センター,pp.16-17(1-2)2004

京都議定書発効(1)、大阪府寝屋川事件(2)、愛・地球博開催(3-9) 、個人情報保護法施行(4)2005

◇中川吉晴『ホリスティック臨床教育学:教育・心理療法・スピリチュアリティ』せせらぎ出版 2005(省察的実践と観想的実践)

◇サティシュ・クマール著、尾関修・尾関沢人訳『君あり、故に我有り:依存の宣言』講談社学術文庫 2005

◆成田喜一郎「ねりま・子どもとおとなの環境会議」(武蔵大学):附属大泉中学校・K 君の発表、中央大学学生による支援、イベントの危機管理対応への支援 2005

◆成田喜一郎(2005)「東京学芸大学附属大泉中学校「帰国子女教育」の歴史:文化的社会的多様性 Diversity の教育へ」『東京学芸大学附属大泉中学校研究集録』No.46, pp.15-39(2005)

2005 文科省「小中学校における学校選択制等の実施状況について」(小/227 団体、中/161 団体の導入)(3)、「指導力不足教員の人事管理に関する取組等について」(指導力不足教員 566 人、過去最多)(8)、「学校基本調査」(不登校児童生徒数 223,317 人、三年連続減少)(8)、内閣府「学校制度に関する保護者アンケート」(学校選択制導入 64.2%が賛成)(10)

◆成田喜一郎、中央大学大教職課程「社会科教育の研究」の兼任講師を開始(4)2005

◆鈴木崇弘・成田喜一郎ほか編著書『シチズン・リテラシー:社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版(成田喜一郎「ケータイを通じた経済から社会について考える」pp.54-60)(4)2005

◆角替晃・成田喜一郎編著『必携! 教師のための個人情報保護実践マニュアル』教育出版(6)2005

◆成田喜一郎「子ども国連環境会議 JUNEC 国際フォーラム 2005 持続可能な開発へ向けた青少年会議 プレセミナー」実行委員会副委員長、基調講演講師(8)2005

女子高生、母親毒殺未遂(10)2005

ライブドア事件、堀江貴文逮捕(1)、耐震強度偽装問題(5)2006

2006 文科省「教育改革のための重点行動計画」発表(1)、「平成 17 年度小学校英語活動実施状況調査」結果(93.6%、20,803 の公立学校で実施)(3)、学校教育法施行規則一部改正(通級

指導室の対象児童生徒に LD 児、ADHD 児、自閉症児が加わる)(3)、東京都品川区で小中一貫校スタート(教育特区)(4)、改正学校教育法(特別支援学校に一本化)(6)

◆成田喜一郎シティズンシップ教育推進ネット主催シンポジウム「ジャパニーズ・デモクラシーの構築に向けて　民主主義と教育、公共、個人について考える『シチズン・リテラシー』出版をとおして」シンポジスト(6)2006

2006 中教審「今後の教員養成・免許制度の在り方について」答申(教員免許更新制の導入、教職大学院の設置等)(7)、必修科目履修漏れ発覚、教育再生会議発足(10)、伊吹文明文相がいじめ自殺予告問題で緊急アピール「文部科学大臣からのお願い」(11)

2006 新「教育基本法」公布・施行(12)

【Ⅴ】現代日本教育史の中の社会科教育(5)持続可能な地球・地域、国家・社会構築のための教育

防衛省設置(1)2007

IPCC(気候変動に関する政府間パネル Intergovernmental Panel on Climate Change)報告第4次報告書第1作業部会報告書を受け、「気候の安定化に向けて直ちに行動を！―科学者からの国民への緊急メッセージ―」(2) 2007

東京学芸大学附属国際中等教育学校が開設(4) 2007

◆成田喜一郎、教員養成カリキュラム開発研究センター(教職大学院設置準備担当)教授として東京学芸大学に着任(4)2007

◆成田喜一郎、東京学芸大学新教員養成システムプロジェクト(6 年一貫教員養成システム試行)への参画(5)2007

2007「教育振興基本計画について 政府は、教育基本法第 17 条第 1 項の規定に基づき、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため「**教育振興基本計画**」を閣議決定」(7)

◆成田喜一郎「これからの子どもたちに求められる力を探る―日本におけるシティズンシップ教育の可能性」日本比較教育学会・公開シンポジウムで「シチズン・リテラシーの育成とカリキュラム開発」について語る(7)2007

◇吉田敦彦『ブーバー対話論とホリスティック教育:他者・呼びかけ・応答』勁草書房 2007

◆成田喜一郎、警察大学校警部任用科講義「学校における危機管理」の開始(6)2007

◆寺澤満春、丸木美術館「ひろしま忌」コンサート(8)2007

2008 文部科学省「小学校学習指導要領解説」(7)、「小学校学習指導要領解説」(8)

◆成田喜一郎、東京農工大教職課程「特別活動論」非常勤講師・集中講義を開始◆(9)2007

日本の 65 歳以上の高齢者 21.5%となり「超高齢社会」に突入 2007

2008 中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(1)

◆成田喜一郎「第 15 回 TAMA とことん討論会『これまでの 15 年・これからの 15 年』～多摩地域のごみ・リサイクルの取り組みを評価検証する～」東京・多摩リサイクル市民連邦／東京学芸大学共催、基調講演講師(2)2008

◆成田喜一郎「持続可能な開発のための教育(ESD)カリキュラムの開発の方法:ESD 推進のための試み」『環境教育学研究』第 17 号,pp.- (3)2008

2008★⑧文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」告示(3)

→「知識基盤社会」、「生きる力」の継承、基礎的・基本的な知識、概念・技能の習得、言語活動の充実(活用としての思考力・判断力・表現力等の育成等)、授業時数増、言語活動や理数教育の充実、道徳教育や体育の充実。中学校社会科では、地誌学習、近現代史学習の充実、法や政治、経済等の基本的概念・基本的考え方、課題追究学習、社会参画、伝統・文化、宗教学習の充実。「持続可能な社会」 の構築〔社会科地理的・公民的分野、理科第一分野・第二分野等に登場〕(120／130／100)

2008 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕の開設(4)2008　◆成田喜一郎、東京学芸大学教職大学院教授として着任(4)2008

◆成田喜一郎「社会科の歴史と理念」『中高社会へのアプローチ：社会科教師の専門性育成』東京学芸大学出版会、pp.8-16 (6)2008

2008 文部科学省「小学校学習指導要領解説」(7)、「小学校学習指導要領解説」(8) カリキュラム開発の方法・学校組織マネジメント・教育ネットワークの構築方法の講義

2008 文部科学省「教育振興基本計画」閣議決定(7)　オスロ宣言・クラスター爆弾禁止条約(12)2008

日本が超高齢・人口減少社会に突入（一説によると 2004 年）2008

2009 文部科学省「教育の情報化に関する手引き」(3)

◆ACCU、成田喜一郎編（2009）『ESD 教材活用ガイド：持続可能な未来への希望』(3)、改訂(12) 2009

2009 文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領」「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」「特別支援学校高等部学習指導要領」「高等学校学習指導要領」告示(3)

◆日本教育大学協会学校図書館部門の創立(4)、成田喜一郎、初代代表に就任(4)2009～(1)2012

2009 文科省「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」（障害の新定義掲載）(6)、「高等学校学習指導要領解説総則編」(7)

2009 東京学芸大学・教員免許更新講習、本格実施開始(7)　◆成田喜一郎、教員免許更新講習「学校における危機管理上の課題」の講義(7)-(8)2009

◆成田喜一郎 ACCU「アジア太平洋 ESD 教育者フォーラム」への参画(8)2009

◆寺澤満春、丸木美術館「原爆の図・第 8 部『救出』」の前でミニ・ライブ(8)2009

2010 中教審初等中等教育分科会教育課程部会児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ「児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループにおける審議の中間まとめ」(2)、 小学校（社・算・理・音）、中学校（社・数・理・音・外）で変更。社会「資料活用の技能・表現」（削除）→「社会的な思考・判断・表現」（付加）、変更理由「「表現」を加えて示した趣旨は，この観点に係る学習評価を言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等 2 を通じて行うことを明確にするものである。このため，この観点を評価するに当たっては，単に文章，表や図に整理して記録するという表面的な現象を評価するものではなく，例えば，自ら取り組む課題を多面的に考察しているか，観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだしているか等，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容等に即して思考・判断したことを，記録，要約，説明，論述，討論といった言語活動等を通じて評価するものであることに留意する必要がある。」(p.12)

◆全国学校図書館協議会編『学校図書館の活用名人になる：探究型学習にとりくもう―』国土社（成田喜一郎　第 1 章「これからの教育」pp.-を執筆）（2）2010

◆成田喜一郎（2010）「ESD の質保証と HOPE 評価の可能性―子どもと教師のためのエスノグラフィー―」『ひろがりつながる ESD 実践事例 48』ACCU, pp.181-190（3）2010

◆成田喜一郎「新教員養成システム／コースの取り組みについて：学部生対象の特別プログラム／特別セミナーを中心に」

三石初雄・川手圭一編（2010）『高度実践型の教員養成へ：日本と欧米の教師教育と教職大学院』東京学芸大学出版会 pp.143-154 (3)2010

◆成田喜一郎監修・長瀬拓也編著『教師になるには』一ツ橋書店 2010

2010 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕3 回生入学(4)

◆東京学芸大学教職大学院主催、教育サークル「未来の扉」後援「『教師になるには』シンポジウム：若い先生がつぶれず、楽しく、伸びていく方法を探る―若い先生同士のピア・サポートと読書の力―」の開催(5) ※シンポジストは若い（20 代）の幼・小・中・高の現職教員及び教職大学院生の参加（5）2010

◆成田喜一郎「第5章3 持続可能な未来への希望：ESD 教材としての『対人地雷』」

日本国際理解教育学会編『グローバル時代の国際理解教育：実践と理論をつなぐ』明石書店, pp.122-127 (6)2010

◆成田喜一郎、Twitter を開始(12)2010

2011.3.11 東日本大震災・原発事故（被災地に生きる生物と人間の生命、心身のケア・安全、そして人権を守ることの意味が、環境・政治・経済・社会・文化などあらゆる専門性や教科・領域を超えて問い質された。そして、人間の尊厳、個人と組織のあり方を考え続けよ、と本質的で根源的な問いを突きつけられた）

◆成田喜一郎、Facebook を開始(3)2011

◆寺澤満春、「希望のコードよ」(詞・曲：レナード・コーエン、超訳詞：寺澤満春)を youtube に Up(4)2011

2011 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕4 回生入学(4)

◆成田喜一郎、福島県「いわきの子どもを守るネットワーク」に加わる(6)2011

2011 日本ホリスティック教育協会・東京学芸大学共催で「ホリスティック教育研究大会」を開催(6),大会テーマ「教育における〈つながり〉の意味を問う―持続可能な未来へのアプローチ―」(2011/06/04,05)

地球上の人類の人口が 70 億人を突破（10 月 31 日）2011

◆成田喜一郎監修・長瀬拓也編著『教師になるには（2013 年版）』一ツ橋書店(12)2011

◆成田喜一郎、還暦(2)2012

◆寺澤満春の還暦、原宿「ケーキと紅茶の店・クリスティー」にて東日本大震災・原発事故支援ライブ」(2)2012

◆成田喜一郎、福島県いわき市・矢祭町訪問、市民との対話（調査）、中学生との対話（特別授業・ミニライブ）(3)2012

2012 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕5 回生入学(4)

◆成田喜一郎「構成主義的学習」(p.170)，「ディベート」(p.178) 日本国際理解教育学会編『現代国際理解教育事典』明石書店, (6)2012

◆成田喜一郎「災害と歴史教育」日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』ぎょうせい, pp.174-175 (6)2012

◆成田喜一郎、福島県小学校教育研究会伊達地区道徳研究部夏季研修会で講演「ホリスティックな教育と道徳の未来」、伊達市・福島市視察(7)2012

2012 中教審「**教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申（案））**」(8)

◆成田喜一郎「Post3.11 の教育・社会における文化・歴史的活動理論の可能性」『活動理論の可能性と課題』活動理論学会編(8)2012

◆成田喜一郎「次世代型学校組織マネジメント理論の構築方法―「水の思想・川の組織論」の創成過程―」『東京学芸大学教職大学院年報』第 1 集, pp.1-12 (9)2012

（附属大泉中学校副校長実務実践の意味づけ、教職大学院共通科目「学校組織マネジメント」講義）

◆成田喜一郎「ESD におけるホリスティックなアプローチの可能性」

秋田県立商業高校ビジネス実践ユネスコスクール班編『ユネスコスクールによる ESD の実践―教育の新たな可能性を探る』アルテ, pp.182-193 (2)2013

◆成田喜一郎「子どもと教師のためのオートエスノグラフィーの可能性―『創作叙事詩・課題』を書くことの意味―」『ホリスティック教育研究』第 16 号, pp.1-16 (3)2013

◆成田喜一郎「東日本大震災・原発事故とわたくしたちの「記憶」と「記録」：ともに違和感を超えて」『東日本大震災と東京学芸大学』東京学芸大学出版会, pp.90-102 (3)2013

◆成田喜一郎「超高齢・人口減少社会と学校教育の可能性：持続可能な未来の構築めざす」

警察政策学会超々高齢社会研究会 編『超々高齢社会へ向けての安全・安心の創造に関する研究―行政・警察・コミュニティの役割と実践―（下巻）』pp.39-51 (3)2013

2013 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕6回生入学(4)、C 大学文学部「社会科教育研究」「社会科教育の指導法」開講(4)

2013 中教審「第 2 期教育振興基本計画について（答申）」(4 月 25 日)

◆成田喜一郎「次世代型学力の創成と学校図書館の可能性―ACT21S 及び PCK を手がかりに―」全国学校図書館協議会『学校図書館』第 752 号 pp.35-39 (6)2013

◆成田喜一郎「オートエスノグラフィーとしての国際理解教育実践史:1976―現在」日本国際理解教育学会で発表(7)2013

◆日本ホリスティック教育協会・成田喜一郎・西田千寿子編『「いじめ」を超える実践を求めて:ホリスティックなアプローチの可能性』せせらぎ出版(10)2013

◆成田喜一郎(2013)「ESD カリキュラム及び授業デザインの理論と方法:カリキュラム開発の方法を探究する」『東京学芸大学教職大学院年報』第2集, pp.1-15,(10)2013

http://www.u-gakugei.ac.jp/~graduate/kyosyoku/i_alumni/data/annual_report_2013_paper1.pdf

2014 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕7回生入学、「カリキュラム開発の方法Ⅰ・Ⅱ」ほか」開講(4)

◆成田喜一郎、専攻代表・副院長に着任(4)2014

◆成田喜一郎、中央大学講義「社会科教育の研究」で Blog を援用した「反転授業的講義」を開始する(4)2014

◆林泰成・山名淳・下司晶・古屋恵太編著編(2014)『教員養成を哲学する:教育哲学に何ができるか』東信堂 332P.

(成田喜一郎「第Ⅰ部 第4章 教職大学院の教育研究における「哲学」の可能性:理論と実践との架橋・往還の彼方に」pp.43-58)(9)2014

◆成田喜一郎(2015)「創作叙事詩『刹那毎の岐路に立つ』」『ホリスティック教育研究』第 18 号 巻頭言, pp.1-4(3)2015

◆平沢直樹・成田喜一郎(2015)「東日本大震災における発達障害者の PTSD と学校危機管理=ケアのあり方 ―発達障害当事者との協働エスノグラフィーを読み解く―」

『東京学芸大学教職大学院年報』第3集、pp.187-202(3)2015

◆成田喜一郎・木下智美(2015)「ESD を推進する教師による〈当事者記録〉:「特攻隊」を主教材としこれからの平和教育を目指して」

『ESD(持続可能な開発のための教育)の推進:現場から進める ESD』平成 24 年度～26 年度科学研究費助成金(基盤研究(C))研究報告書 課題番号 24531017

「ESD を推進するための教員リーダー養成プログラムの開発」研究代表者 中山博夫(目白大学)(3)2015

◆成田喜一郎(2015)「ESD と教師教育 2010―2014」『持続発展教育(ESD)調査研究協議会研究報告書』平成 26 年度所沢市立教育センター 持続発展教育(ESD)調査研究協議会、

巻頭言(3)2015

◆ユネスコ・アジア文化センター(2015)『ユネスコスクールの今:ひろがり つながる ESD 推進拠点』ACCU

(成田喜一郎「それでも『持続可能な未来への希望』をつくる ESD 学習=評価活動:証拠・証言としての『当事者記録』を書く」pp.82-85)(3)2015

◆成田喜一郎編(2015)『ESD カリキュラム開発の方法 2014』「カリキュラム開発の方法」研究成果報告書(東京学芸大学教職大学院)160P.(3)2015

◆成田喜一郎編(2015)『持続可能な社会の担い手を育てる Special Activities:「大縄跳び」の此方と彼方とその狭間から 』学びの〈当事者記録〉研究成果報告書

(東京学芸大学教職大学院)51P.(3)2015

2015 東京学芸大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻〔教職大学院〕8 回生入学、定員 30 名から 40 名に、カリキュラムデザイン・授業研究コース学校組織マネジメントコース設置(4)

◇安井俊夫ほか著(2015)『ともに学ぶ人間の歴史』学び舎 (4)2015

◆早田幸政編著(2015)『大学の質保証とは何か』エイデル研究所(成田喜一郎「一般財団法人 教員養成評価機構における教職大学院評価のポイント」pp.70-80)(5)2015

◆日本国際理解教育学会編著(2015)『国際理解教育ハンドブック―グローバル・シティズンシップを育む―』明石書店 257P.(成田喜一郎「参加型学習と振り返り」pp.119-124)(6)2015

◆成田喜一郎(2015)「Post3.11 社会と私たち:今, どのような力が求められるのか」『中学社会通信 Socio express』教育出版, 2015 年春号(2015.4.15)pp.2-5(4)2015

◆成田喜一郎(2015)「グローバル時代の国際理解教育と教師教育の未来:ホリスティック・アプローチの可能性」『国際理解教育』Vol.21　pp.24-33(6)2015

2015 教育課程部会教育課程企画特別部会「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」(8 月 26 日)

参院本会議において安全保障関連法案(集団的自衛権の限定的な行使容認を含む安全保障関連法案)の採決、

自民・公明の与党ならびに、元気・次世代・改革の野党 3 党の賛成多数により可決成立(9)2015

国際連合が持続可能な開発のための 2030 アジェンダとして示した持続可能な開発目標が国連総会で採択(9)2015

◆成田喜一郎、日本教育大学協会研究集会(埼玉大学)教職大学院分科会で「　」報告　(10)2015

パリ、同時多発テロ、120 人を超える死者(11 月13日)2015

2015 文部科学大臣・下村博文「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」(11 月 20 日)

◆成田喜一郎(2015)「(連載)A-YON 通信・1　子どもが好きになる、摩訶不思議な「ルカーワ型テスト」、試してみませんか?―アクティブ・ラーニング型評価の可能性」

『学校図書館』第 782 号(12 月)、全国学校図書館協議会、pp.74-75 (12)2015

◆成田喜一郎(2015)「教育の総合大学としてどう個性化を図るか　第3回　教職大学院の改革:統合型カリキュラムと2つのコース制の導入」『SYNAPSE』vol.47,2015.12、

ジアース教育新社, pp.40-42(12)2015

◆成田喜一郎(2015)「(連載)A-YON 通信・2 〈創作叙事詩〉って何だろう? なぜ〈解題〉なんか書くんだろう?」『学校図書館』第 783 号(1 月号)、

全国学校図書館協議会、pp.50-52 (1)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・3　知と心と身体にとどけ、「はんせい歌/えいこん歌」のススメ」『学校図書館』第 784 号(2 月号)、

全国学校図書館協議会、pp.74-76 (2)2016

◆成田喜一郎(2016)「教職大学院における「カリキュラム研究」の成果と課題:理論と実践の架橋・往還への「みち」2008-2015」『東京学芸大学教職大学院年報』第4集、p.1-12(3)2016

◆多田孝志・和井田清司・佐々木幸寿監修、青木　一・金井香里・北田佳子・黒田友紀 編(2016)『教育の今とこれからを読み解く 57 の視点』教育出版

(成田喜一郎「視点 56 つながりを回復する:ホリスティックなアプローチの可能性」pp.186-187) (3)2016

◆成田喜一郎編著(2015)『学校の危機管理と個人情報の保護:子どものいのちと人権を守る』東京学芸大学教職大学院 (3)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・4　長話はご法度、借用話もどうかなあ?　拍手も起こる「講評歌」のススメ!」『学校図書館』第 785 号(3 月号)、

全国学校図書館協議会、pp.55-57 (3)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・5　創作叙事詩「川下にいる者」を読み解く―「水の思想・川の組織論」への道(1)」『学校図書館』第 786 号(4 月号)、

全国学校図書館協議会、pp.62-64 (4)2016

2016 東京学芸大学教職大学院、高度選択科目に各教科の指導法(+日本語指導)の講義、国際バカロレア関連科目2科目を開設

◆成田喜一郎、Shami Datta 准教授と T.T で高度選択科目「国際バカロレアの教授・学習と評価システム」(春学期)の講義・WS を開始 (4)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・6　サーバントリーダーって何だろう?―「水の思想・川の組織論」への道(2)」『学校図書館』第 788 号(6 月号)、

全国学校図書館協議会、pp. 87-89 (6)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・7　古今東西・長幼を超えて生きる「老子の思想」―「水の思想・川の組織論」への道(3)」『学校図書館』第 788 号(6 月号)、全国学校図書館協議会、pp. 58-60 (7)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・8「『CAP,DO！サイクル』ってご存知ですか？:PDCA を超える珠玉の方法」『学校図書館』第 790 号(8 月号)、全国学校図書館協議会、pp. 82-83 (8)2016

2016 教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第 14 回:6 月 13 日):http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/071/siryo/1372399.htm

◆成田喜一郎、公民研箱根合宿で本資料をもとに、「原点回帰／越境する教育学の創成:歴史学・社会科教育を中心に」を報告 (8)2016

◆成田喜一郎、開発教育協会全研「教師が変わると学校が変わる?！」分科会で「新しい教員研修ワークショップの方法とそれを支える理論」を報告 (8)2016

◆第 55 回教育科学研究会全国大会」分科会で「ライフヒストリーの中の環境教育:ESD につながる経験と実践」を報告 (8)2016

東京学芸大学免許状更新講習・選択必修 (8)2016

2016 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(8 月26日)次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)

東京学芸大学教職大学院、第1回教職大学院フォーラム「実践からみた学校の組織づくりとミドルリーダーの育成:次世代型ミドルリーダーの育成と学校組織の機能強化に向けて」開催(8)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・9「子どもと教師とのズレに気づき、教育の本質的諸相に迫るプロセス～ALACT モデルへの道～」『学校図書館』第 791 号(9 月号)、全国学校図書館協議会、pp. 70-72　(9)2016

◆成田喜一郎、早稲田大学大学院教職研究科「持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践」 集中講義(9)2016

◆成田喜一郎、自由学園最高学部「ホリスティック教育の理論と実践」集中講義(9)2016

◆成田喜一郎、中央大学教職課程「社会科教育法1」開始(9)2016

◆成田喜一郎、本学教職大学院選択必修「カリキュラムデザイン授業研究演習」T.T 開始(9)2016

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・10「『問うことを問う』ということ(1)」『学校図書館』第 792 号(10 月号)、全国学校図書館協議会、pp. 88-90(10)2016

◆成田喜一郎、本学教職大学院共通科目「カリキュラムデザイン基礎」(秋学期)開始 (10)2016

2016 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第 197 号)」(12 月 21 日)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

◆成田喜一郎(2016)「(連載)A-YON 通信・11『問うことを問う』ということ(2)―問いを愛し、問いを生きる」『学校図書館』第 794 号(12 月号)、全国学校図書館協議会、pp.53-56 (12)2016

◆成田喜一郎(2017)「A-YON 通信・12『問うことを問う』ということ(3)―永続的な理解や思考を促す問いと応答までの長い時間」『学校図書館』第 795 号(1 月号)、全国学校図書館協議会、pp.73-75 (1)2017

◆成田喜一郎、中央大学文学部教職課程「社会科教育法」(最終回・最終講義)(1.23)2017

◆成田喜一郎(2017)「(連載)A-YON 通信・13　今、『ディベート』を問い直す(1)」『学校図書館』第 796 号(2 月号)、全国学校図書館協議会、pp.82-84 (2)2016

◆成田喜一郎、本学教職大学院共通科目「カリキュラムデザイン基礎」最終回（最終講義）(2)2017

◆成田喜一郎「オートエスノグラフィー　ライフヒストリーの中の環境教育 :『史的環境教育学』への誘い」『環境教育学研究』第 26 号 (3)2017

◆成田喜一郎「協働エスノグラフィー　懐かしい未来との対話：ラダックの暮らしと私たち」『ホリスティック教育研究』第 20 号 (3)2017

◆柿添賢之・成田喜一郎編著『現職教員危機管理研修推進テキスト：学校危機管理の理論と実際』現職教員研修推進機構「教職大学院プロジェクト」(3)2017

◆成田喜一郎「カリキュラムデザイン研究の現在：1994.8 から 2017.2 までの学びと究めを踏まえて」『東京学芸大学教職大学院年報』第５集、pp.1-13、(3)2017

◆成田喜一郎『越境するカリキュラムデザインの展開：社会科教育を中心に（抄）』東京学芸大学実践研究成果報告書(3)2017

◆成田喜一郎、越境する社会科「最後の授業」研究会（最終講義）の開催（3 月 25 日）、東京学芸大学(1978.4-2017.3)を定年退職 (3)2017

2017 年 3 月 10 日現在

【参考文献・資料】

・岩波書店編集部(2001)『近代日本総合年表(第四版)1853-2000』岩波書店

・葉養正明ほか編著(2007)『最新　教育キーワード 137(第 12 版)』時事通信社

・東京学芸大学社会科教育学研究室編(2010)『中高社会科へのアプローチ―社会科教師の専門性育成―（改訂新版）』東京学芸大学出版会

・成田喜一郎の著作物（論文・著書・Web Page・Blog・Twitter・Facebook 等）

Site1：中学校社会科授業等記録（附属大泉中学校／世田谷中学校 2000-2006）：http://newtokinomahoroba.life.coocan.jp/

Site2：社会科教育法（中央大学 2005-現在）http://shakaikakyouikukennkyuu.blogspot.jp/?view=flipcard ， http://blog.livedoor.jp/jzs03765/

Site3：カリキュラム開発の方法、カリキュラムデザイン基礎（教職大学院 2008-現在）：http://pedagogytocrosstheborder.blogspot.jp/?view=flipcard

Site4：教職大学院キーワード・カタカナ語小事典（大学院生編 2013）：http://keywordkatakanagojiten2013.blogspot.jp/?view=flipcard

Site5：ESD の理論と実践（早稲田大学集中講義 2015-現在）：http://esd2005-2015.blogspot.jp/?view=flipcard

Site6：ホリスティック教育の理論と実践（自由学園集中講義 2016）：http://holisticeducation2011.blogspot.jp/?view=flipcard ， http://blog.goo.ne.jp/jzs03765

Site7：特別活動論（東京農工大学集中講義 2007-2014）：http://specialcurricularactivities2014.blogspot.jp/?view=flipcard

＊その他、留意事項：ウィキペディア・フリー百科事典：https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:ウィキペディアを引用する（2016.8.5 取得）

【注意事項】

このデータをもとにご自身のライフヒストリー年表・年譜を作成する場合は、上記の【参考文献・資料】の出典以外に使用した文献も明記しておきましょう。

このデータは、著作物（**Copyright©2017NARITA Kiichiro**）です。

東京学芸大学　成田喜一郎